

ドイツ語（初級 A）／A ドイツ語 第 5 回 定動詞の位置（主文）、動詞の現在人称変化（続）

範囲：教科書第 2 課 B、第 3 課 A（S. 14-16）

《今回の基本例文》

10. Frau Bauer nimmt den Urlaub und fährt nach Italien. (CD17-9)

バウアーさんは休暇を取得し、イタリアに行く。

[幹母音が a → ä に変音する動詞、幹母音が e → i に変音する動詞、(前置詞)]

11. Petra spricht sehr gut Japanisch. (CD17-2)

ペトラは非常に上手に日本語を話す。

[幹母音が e → i に変音する動詞、(形容詞の副詞用法)]

12. Er sieht die Ampel nicht. (CD17-4)

彼は信号を見ていない。

[幹母音が e → ie に変音する動詞]

I 語順の法則（主文篇）：定動詞第 2 位の原則

B. 定動詞の位置（1） (S. 14)

補足 定動詞第 2 位の原則

◇ 授業第 3 回で、単純な文の組み立て方を紹介した（配付資料 S. 6）。ただし、これはあくまでも便宜的なもので、そこで出てきた文は英語と似た SVO 型だけだった。しかし、本来のドイツ語の語順の考え方は英語と大きく異なる。ここでは、基本的な語順の原則について学ぶ。

《ドイツ語文（主文）の語順の大原則》

定動詞第 2 位の原則 = 定動詞を 2 番目に持ってくる

◇ ドイツ語の文（主文）では、定動詞（人称変化させた動詞）が各要素のうちの 2 番目に入るのが原則である。これを「定動詞第 2 位の原則」などと呼んでいる。

* これは主文の話で、副文（従属の接続詞、英語でいう because や if や関係代名詞などで導かれた文のこと）の場合は異なる。

(⇒教科書第 8 課 B)

第 1 位	第 2 位＝定動詞	第 3 位以下	説明
Er	trinkt	abends Bier.	主語が第 1 位なら英語と同じ主語－動詞...
Abends	trinkt	er Bier.	副詞が第 1 位なら副詞－動詞...
Bier	trinkt	er abends.	目的語が第 1 位なら目的語－動詞...

というように、「定動詞が第 2 位に来る」のを鉄則として、さまざまな語順がありうるが、

- ・一般に、最も強調したい要素を第 1 位に置く。
- ・定動詞と最も結びつきが強い要素（4 格目的語、移動の目的地など）は、第 1 位に来ないのであれば、動詞から最も離れた文末に置く。これを**枠構造**という。
- ・主語は、第 1 位に来ないのであれば、定動詞のすぐあと（第 3 位）に置くのが普通。

◇ 上記の例文より要素が多い文に関しても、同様に考えればよい。「彼は今晚、家でドイツ語を学ぶ」であれば、

第1位	第2位＝定動詞	第3位以下	説明
Er	lernt	heute abend zu Hause Deutsch.	主語文頭タイプ。
Deutsch	lernt	er heute abend zu Hause.	目的語文頭タイプ。
Zu Hause	lernt	er heute abend Deutsch.	副詞文頭タイプその1。
Heute Abend	lernt	er zu Hause Deutsch.	副詞文頭タイプその2。

* heute Abend（今晚）や zu Hause（家で）のような2語1組の副詞はひとかたまりとして考える。

◇ **補足疑問文**も、定動詞第2位の原則に従って文をつくり、疑問詞は第1位に置く。定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。

第1位	第2位＝定動詞	第3位以下	説明
Wer	trinkt	abends Bier?	疑問詞 wer（誰が）が主語である場合。
Wann	trinkt	er Bier?	疑問詞 wann（いつ）が副詞である場合。
Was	trinkt	er abends?	疑問詞 was（何を）が目的語である場合。

◇ 一方、**決定疑問文**は、定動詞を第1位に置き、主語はその次に置く。定動詞と結びつきの強い要素を最後に置くのは平叙文のときと同じ。

第1位＝定動詞	第2位＝主語	第3位以下
Trinkt	er	abends Bier?

* 補足疑問文、決定疑問文ともに英語と異なり *do* や *does* に類する助動詞を用いる必要はないのは、授業第3回で述べた通り。

補足練習問題

指示に従って文を書き換えよ。

1. Ich lerne Deutsch. (Deutsch を文頭に)
2. Ich bin Studentin. (Studentin を文頭に)
3. Peter wohnt jetzt in Berlin. (jetzt を文頭に)
4. Peter wohnt jetzt in Berlin. (in Berlin を文頭に)
5. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (決定疑問文に)
* zwei Stunden (2時間) は副詞的4格。
6. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Hanna を問う補足疑問文に)
7. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (heute を問う補足疑問文に)
8. Hanna übt heute zwei Stunden Klavier. (Klavier を問う補足疑問文に)
9. Das ist der Tisch des Lehrers. (wem と gehören で des Lehrers を問う疑問文に)
10. Das ist das Haus einer Ärztin. (wem と gehören で einer Ärztin を問う疑問文に)

II 動詞の現在人称変化（続）：幹母音変音型

A. 動詞の現在人称変化（2） (S. 15)

補足 幹母音変音型の動詞の現在人称変化

◇ これまで動詞の現在人称変化として、規則動詞、規則動詞のヴァリエーション（arbeiten 型、reisen 型、tun 型）、不規則動詞（sein、haben、werden）を学んできた（教科書第 1 課）。ここでは、現在人称変化の途中で幹母音（動詞の語幹の母音）が変わってしまうタイプの不規則動詞を覚えよう。

◇ 二人称単数（du に対する）と三人称単数（er に対する）のみ不規則なカタチが現れるので、この 2 個所にだけ注目すればよい。

◇ これらの不規則な現在人称変化は、教科書巻末の不規則変化動詞表（この教科書ではページ数がないので注意）のほか、辞書を引いても確認できる。また、辞書の巻末にも不規則変化動詞表があるのが普通。

1 a → ä 型（幹母音 a がウムラウトして ä に変わるもの）

◇ 注意が必要なのは、laufen のように幹母音が二重母音 au であるパターン。変音後は äu となるので、発音は教科書 S. 6 で学んだ規則に従って[ɔʏ]としなければならない。だから、不定詞 laufen[laufen]、ich laufe[laufe]に対して、du läufst[lɔʏfst]や er läuft[lɔʏft]となる。

◇ **halten** (vt. 保つ／つかんでいる) については、以下の変化表となる。

	halten
ich	halte
du	hältst
er	hält
wir	halten
ihr	haltet
sie	halten

* 語幹が-tで終わるのに、arbeiten 型とは異なり、du と er に対しては語調を整える e が入らない（ihr に対しては入る）。

2 e → i および e → ie 型（幹母音 e が i、もしくは ie に変わるもの） (S. 16)

◇ 幹母音 e が短母音[e]なら i[i]に、長母音[e:]なら ie[i:]に変化。

◇ **geben** (vt. 与える) の場合、幹母音が長母音[e:]であるにもかかわらず i が現れる。ただし、発音は長母音[i:]で読む。

	geben
ich	gebe
du	gibst [gi:pst]
er	gibt [gi:pt]
wir	geben
ihr	gebt
sie	geben

◇ 「幹母音の変化につれて、他の綴りにも変動のあるもの」については、教科書にもある **nehmen** (vt. 取る) のほか、**treten** (vi. 歩く) などがある。

	nehmen	treten
ich	nehme	trete
du	nimmst	trittst
er	nimmt	tritt
wir	nehmen	treten
ihr	nehmt	tretet
sie	nehmen	treten

* treten に関しては、halten と同様、語幹が-t で終わるのに、arbeiten 型とは異なり、du と er に対しては語調を整える e が入らない（やはり ihr に対しては入る）。

◇ 幹母音が a や e だからといって、すべてこのような不規則変化をするわけではない。これまで登場した **machen** (vt. ～を作る／する)、**lernen** (vt. ～を習う) は、もちろんただの規則変化である。

練習問題の補足

Übung 1 (S. 15)

1～6. nach は前置詞（⇒教科書第 5 課）で、移動先が地名（固有名詞）であるとき用いる。

Übung 3 (S. 16)

5. Mädchen (女の子) は、生物学上の性は女性だが、-chen の語尾がつくと中性というルール（⇒「名詞の性別の見分け方」S. 2）が優先して中性名詞となる。

Übung 4 (S. 16)

1. ein bisschen は副詞句で「少し、わずかに（英語の a few）」。

2. sehr は副詞で「非常に」。

3. da は副詞（そこにいる）だが、名詞に後置して「その～」のようにも使える。

7. geben は 3 格目的語（～に）と 4 格目的語（～を）の両方をとることができ、SVOO 的な構文をつくる。（⇒授業第 4 回配付資料 S. 6）

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>